

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第92回放送の概要 (2015年1月31日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
たろう (佃 由晃)
なか (中嶋邦弘)
かりん (妹尾優香)
あな (岸本幸恵)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) JR兵庫駅前の「神戸ルミナスホテル」, 抜群のロケーション、最新の設備と最高のおもてなし、ビジネス、観光の快適な拠点として皆様のお越しをお待ちしております。1階コローレではおいしいコーヒや紅茶、おいしいランチやお食事なども楽しめます。本日は「神戸ルミナスホテル」様 (TEL:078-511-7700) のご協力を頂きました。

1. ゲストコーナ (1): 大見昭子さん (FMわいわい番組「アフタヌーンねね」のメンバー)

本日のゲスト、主婦の大見昭子さんは、ゆうかり放送委員会のメンバーである、わだかんさん、門ちゃん、なかちゃん、私と一緒に、70歳以上のメンバー8人が出演しているFMわいわいの「アフタヌーンねね」という番組の唯一の女性で、次のような方です。

- ・私より少し先輩ですが、年を感じさせない
- ・誰とでも、言葉のわからない外人とでも、よくしゃべる、しゃべれる、いつまでもしゃべれる
- ・本を読むのが大好き、歌うのが大好き
- ・生き方に信念を持っている
- ・話の内容、表情、態度から話相手の人となりを、短時間でかなり正確に見分ける、人の洞察力に優れている (占い師になれる)
- ・FMわいわいのあるたかとり教会では人気者で、一目を置かれた存在の方です。

本日ゲストとしてお越し頂いたのは、日頃からお話している中で、国の重要施策の一つに取り上げられている、女性が社会で活躍することについて、一味違う視点で警鐘を鳴らされているので、リスナーの皆さんにも是非聴いて頂きたいと思い、出演頂きました。

大見昭子さんが、戦中、戦後の混乱期に女性の労働について見聞きして感じたことは、すごく怖い事であった。大阪で生まれ近所に焼夷弾が落ちたので、父親は親族一族郎党と疎開した。疎開先の田舎は、長時間汽車に揺られやっと着いた場所で、父親が一族を養うため、田んぼや船を購入し、自給自足の生活をした。父親自身は従業員を雇い、専売公社 (塩) の仕事をした。

疎開先は大見さんにとって見るもの聞くものすべてが珍しく、言葉が違うので近所の子供からのいじめもあり、怖く感じた。そのような環境の中ではうまく立ち回らないといけないと思い、嫌われないようによく喋った。友達の家は全て農家で、お嫁さんがくると、嫁ぎ先の両親、兄弟12人の家族で、3

日3晩宴会をすると、4日目からは田んぼに出る。仕事からは少し早く帰らせ、家族全員の家事を準備する。食後お嫁さんは風呂を沸かすが、その時よく泣いているのをかくれんぼしながら見ていた。子供心にきれいだったお嫁さんが何で泣いているのかなと思っていた。後日、大家族の中の人間関係、小姑がいる、労働がある、そこに子供が生まれると悲惨であることがわかった。大見さんは子供の頃から体が大きかったので、友達の子供を背負って遊び、友達を助けた。友達は学校から帰ると、水汲みをし、風呂に水を入れ、大見さんと友達2人で水車で田んぼに水を入れるなどの手伝いをした。

お嫁さん、お母さん、お姉さんの労働を見ていると、農家には絶対嫁がないと子供心に思った。農家も、娘は農家に嫁がさないと断っていた。都会に出てサラリーマンと結婚するのがステータスであった。農家に嫁ぐと過酷労働のため、おしゃれな人が急にしぼんでしまう。

その後大見さんは結婚し、九州の炭鉱に転居した時、当時炭鉱閉鎖の動きがある時期で、炭鉱のお母さんが働きに出ていた。仕事は掘り出した石炭の仕分け作業で、真黒になる重労働であった。そのお母さんがパートとして大見さんの工場に働きに来たので知り合い、炭鉱の長屋形式のプライバシーのない社宅に呼ばれ、働くことが女性にとってどれほど怖いかを知った。しかしお母さんたちは、明るく逞しく生きていた。

その後高度成長時代に入り、パート制度が生まれた。それまでは結婚すると仕事を辞めないと、夫に甲斐性がないと言われるので、働くのは未亡人かご主人が病弱で働けない場合のみであった。また働く場合はご主人の印鑑がないと働けない時代であった。当時働きたい女性はいたはずであるが封じられていた。当時の男性は、夫婦げんかの時に、誰のお陰で飯を食べていけるのか、と問い続けてきた。このような状況から、女の子には学歴をつけさせたいと強く思うようになった。頑張らしてパートに行き子供を大学に行かせた。

パートに行っても、男性は高々パートではないか、もっと稼いでから文句を言えと言う。パートも仕事に違いないので、帰ってからの家事への脳の切り替えが大変であった。子育て、近所付き合いから家事全てをやり、更にパートをするのは、慣れていないので寝る時間が少なくなり、大変だった。元々の男女の役割分担が決まっており、その上で女性がパートで働いた場合は、女性の元々の仕事はすべてやり遂げる必要があった。子供は当時の状況を、お母さんはいつも「早く早く」と言っていたと言う。また朝出かける時は夫にチューをしていたと言った。高度成長期は、夫が毎日多忙で母子家庭のような状況になり、寂しかった。従って母子の関係は強くなり、夫が家庭内で居場所がなくなった。

かりんさんは、結婚当初共働きで、子供を見る人がいなかったため、出産で会社を辞め、専業主婦になり、子供が成長し15歳になった時にパートに出た。子育ての間は男の子にも家の用事を手伝ってもらい、男の子だからこうする、女の子だからこうするという育て方はしなかった。息子はボタンつけもするし、用事をしている時は黙って手伝っている。

2. ミュージック：アジアの風（作詞：梶原哲則、補作詞・作曲：小室 等、歌：小室 等）

FMわいわいは、震災直後に放送を開始し、1996年1月17日に正式開局、その後1周年を記念してイメージソングを公募しました。震災当時はメッセージソングを作る人もボランティアとして多く来られていました。そのような繋がりの中から、小室 等さんをお願いし、作曲していただきました。

多数の応募の中から、梶原さん作詞の「アジアの風」、他を、小室さんに送付したところ、「77.8 エフエムワイワイにて候」も作りたいということで、CDにはこの2曲が収録されています。CD化に際しては、啓明学院のご支援をいただきました。

1997年1月17日に「FMわいわいイメージソング」の発表が行われ、その後現在まで震災を振り返る際には歌い継がれています。尚、アジアの風のバックコーラスには、FMわいわいの関係者が「FMわいわいコーラス隊」として参加しています。

FMわいわいイメージソング  **アジアの風**  詞／柘原哲則 曲／小室等

そっと、目を閉じれば 体に 風を 感じる アジアの風を
そっと、耳を澄ませば 風が 何かを 囁く アジアの風が
もっと、研ぎ澄まして もっと、研ぎ澄まして 風に 耳を 傾けて
アジアの風に

風よ吹け 風よ、国境を越えて 風よ吹け 風よ、人に届いて
もっと、心を開いて もっと、心を開いて 風を 心に 受けとめて
アジアの風を

風よ吹け 風よ、人を繋いで 風よ吹け 風よ、地球を回れ



のむらあきさん 小室 等さん おーまきちまきさん



神田神父

柘原哲則さん



司会 西條遊児さん 挨拶 神田神父



歌 神田神父

3. ゲストコーナ(2)

政府は今、女性の活躍を政策の大きな柱にしていることについて、きれいな言葉で女性を家庭から出そうとしているが、言葉ではなく、社会全体あるいは男性の考えを変えた上で、出てきてくださいと言ってもらわないと、昔、大見さんが見聞きしたような状況に追い込まれる可能性がある。男性の今の働き方の上に女性の働きを乗せるのではなく、国も企業のトップも考え方を換え、男性の働き方を変えて、もっと家庭に返す、個人的な事に時間が割けるように、働き方を変える必要がある。

世界3位になった日本をもう一度2位に戻そうとして、今の男性の拘束時間に、更に女性の拘束時間を乗せようとしているのではないかと考えてしまう。女性が社会に出ることで男性に余裕が生まれ、女性が出ることで、女性ならではのふるまいが組織内にも浸透し、アイデアが生まれるのではないかと。

非正規社員やパートではなく、男女とも今の生活に合った働き方、職場の柔軟性が必要。そうでなければ男性も苦しい。選挙でどのような人に投票するのかを、特に女性はよく考えてほしい。選挙で1票の格差が問題になっているが3倍程度であるが、議員の数は男性92対女性8である。この格差を変えないと女性のための施策が生まれない。女性候補者に女性が投票する動きをしないと国政は変わらない。この面での女性の意識改革が必要。

最近の共働き家庭内の男女の役割分担について、かりんさんの娘さんの場合、同級生と結婚した1年目の新婚家庭で、家事は全て娘さんが行い、傍からみて負担がかかっている。かりんさんの同級生で全て男女同権の夫婦がいるが、両親を見ている娘さんが親のような人と結婚したいと思うが、現実にはそのような相手が見つからない悩みがある。

企業は男性の給料を多くし、給料の多い男性に頼らざるを得ない状況を作っている。給料の分配を変える必要があるのではないかと。給料も家の中も50-50が望ましい。母子家庭の貧困の問題がある。感謝料や養育費が男性からももらえない場合が多いので、少なくとも養育費は子供に罪がないので給料から天引き出来るよう、制度を変えるべきである。

男性の意識が人により差があるについて、かりんさんの場合、性差に気をつけて育てたが、母親として息子に無意識のうちに手をかけすぎた反省がある。男の子は出来ないだろうと思って手をかけたところがある。

女性がストレスなく社会進出するためには、①子供の頃からの教育、すなわち5教科並みの重要な教科として、家事一般の教育を幼稚園から行う事、次に②男性に対するコミュニケーション能力向上の教育が必要。結婚、就職後のコミュニケーション能力は、男性は仕事以外の個人的な事柄については低い。③脳科学の勉強をし、男女の違い、思考回路の違いを認識し、齟齬が生じる背景を知る必要がある。大見さんは結婚して初めて男女の考え方の違いに遭遇した。最近脳科学の本を読み、自分達夫婦にぴったり当てはまることにびっくりした。脳科学を知って出発すると、互いに敵対せず、違いを知り、相手を理解し、不足を補いあい、認め合うことができるようになる。男性は聖徳太子になれないこと、すなわち、同時にちがう思考回路は働かないこと、しかし女性は平面的で、子育てしながら周りの動きに五感で反応できる。この能力は社会に出ても役立つので男性が助かることになる。このような事を知って助け合う、認め合うことが大事。

政府の女性活躍の方針には、以上のような考え方、取り組みが必要ではなかろうか。企業には女性のトップが少ないので、女性の活躍できる組織、職場づくりが出来ないのではないかと。古い伝統に基づく組織を変えるのは一朝一夕では出来ない。女性のストレスが子供に向かい、虐待が起きている。男性も組織に疲れ、子供の虐待や女性へのDVに繋がっている。お互いに余裕ないので、企業も時間を個人に返すような取り組みが必要ではないかと。

大見さんが指摘された点については、最近報道されたアイスランドの取り組みでは、すでに実現されていると思われる。

アイスランドは元々は男性社会であるが、今は共働き率98%の世界一男女平等の国である。育児休業制度は9カ月あり、母親は3カ月、父親は3カ月、その後どちらかが3カ月取得できる。給与は国から80%支給される。休業後は同じポストに戻れる。これは早く仕事に戻れる制度である。男性は全員が育児休業制度を利用。育児をサポートしない企業は国民から嫌われ、売上げが下がる。

アイスランドが男女平等の社会になったきっかけは、2008年リーマンショックで財政破たんしたた

めで（3大銀行のCEOが金利15%で金を集め、リスクの高い金融商品を買いたった）、国は破たん原因を調査した報告書の中で、**原因は銀行の経営者が男性だったから**と結論付けた。女性はリスクを考え、すぐに決断しないで選択肢を探る。しかし男性がギャンブル的経営に走ったから破たんした。

アイスランドは、財政破たん後教育に力を入れた。幼稚園教育では究極の男女逆転教育（異性を理解するため男女別々に教える）を実施している。例えば男子だけを集め、赤又は青服を着せる（色による固定観念を持たせない）、男子にお化粧ごっこ、女子には活発な男子が女子の気持ちを理解するため、屋外でハラハラする遊びをさせている。そして教育理念は、男女はお互い敵ではない。男だから女だからではなく、お互い認め合って助け合えるようにすることとしている。

結果として、出生率は2.1でトップ、他の北欧諸国のフィンランド、ノルウェースウェーデン、デンマークは1.9である。大見さんが長年考えてきた事がまさに現実のものとして存在しており、やる気があれば出来る、実現出来る課題である。まずは教育をどう変えていくかが重要である。

4. 地域瓦版

合唱団ユウカリプタスの第8回定期演奏会が、2月22日（日）14時開演、神戸文化ホール、中ホール、入場料1000円で開催されます。兵庫高校の卒業生で作る混成合唱団です。

長田神社の古式追儀式が2月3日（火）、13時節分祭、14時追儀式神事、湊川神社は11時、生田神社は10時から節分祭の神事が始まります。

第4回長田区ふれまちフェスタが、2月22日（日）10時30分～15時30分、地域人材支援センターで開催されます。

5. 来月のゲスト

兵庫県ビジョン委員会メンバーの北川有里紗さんにお越し頂きます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>